



2015.1.1 元旦

■ 九大・大屋教授 発電装置併設の養殖いけす



沖合に浮かぶ最先端の発電装置を併設した養殖いけす。革新的な発電システムの研究を進める九州大応用力学研究所所長の大屋裕二教授(62)が思いついた再生エネルギーと漁業のコラボだ。沖合での養殖は湾内よりも潮流が速く、運動力の高い養殖魚が育つメリットがある。しかし、餌のたびに沖合に出るのはひと苦労だ。再生

大屋教授が計画を進める洋上エネルギーファームのCG画像

エネルギーによる自動給餌器を備えた夢の浮橋が、大屋教授が描く未来図だ。やや強い風が安定的に吹き、波も比較的穏やかという条件がそろ

高効率風レンズ風車

沖合でも設置可能 給餌器備えた浮橋計画



騒音などの課題に対応しつつ発電能力アップを目指して、大屋教授(右)は大学院生のウリ・ゴールデンボットさんらと、小型や中型の風車を集め大型と同規模の発電力を生む「マルチローター」風車(奥)を開発した
—和田大典撮影

う愛媛県宇和島市の西方海域を候補に、同市のうわみ漁協と協議を重ねる。長さ約70mの三角形の浮島の下に

《大特価セール》
 家庭用・プロ用刃物工具の国産伝統優良品専門店
祐一刃物店
 唐人町一丁目 こども病院通り
 ☎092-741-4324 FAX722-2960
 fukuichihamonoten.jimdo.com/

養殖いけすを設置。浮島の三隅に風力発電の風車、浮島上に太陽光パネルを並べた洋上エネルギーファームを計画している。
【末永麻裕】